



COSSS report

Chuetsu Organization for Safe and Secure Society.

公益社団法人 中越防災安全推進機構 機関紙

2016 秋

VOL. 16

中越メモリアル施設 若手スタッフの気持ち 震災当時、幼かった私たちの今



—U-30 ボクらのメモリアル時代—
各メモリアル施設の若手スタッフによる座談会を開催しました。

contents

P2-3 特集①

U-30 ボクらのメモリアル時代
メモリアル施設の若手スタッフによる座談会

P4-5 特集②

ふるさと回帰支援センターだより
新潟移住支援デスクスタッフによるレポート

P6 シリーズ防災教育の現場から 第9回 新潟市立山の下小学校「わが家の津波ひなん地図づくり」

P7 シリーズ人 中越市民防災安全士会 盛澤 文雄 さん

P8 シリーズ4コマまんが「川口の冬」 P8 インフォメーション、施設のご案内、会員募集

特集① U-30 ボクらのメモリアル時代

中越メモリアル回廊がオープンして5年、中越沖メモリアルがオープンして1年。各メモリアル施設で20代の若手スタッフの活躍が多くなってきました。そこで、10月5日に震災当時中学生だった20代半ばのスタッフが当時小学生だった成人したての最若手スタッフにインタビューを行う座談会を開きました。当時子どもだった私たちの被災生活やその後の日常から現在の仕事についてなど・・・若者ならではの感性や葛藤が飛び交いました。



聞き手 中村 充 × 畔上 陵 × 目黒 幸恵
 話し手 関 将慶 × 阿部 仁美

震災当時のことを覚えてますか？

(関) 東竹沢小学校近くの山場の辺りからヘリコプターに乗って、河道閉塞を上から見たらすごく衝撃的でした。一度手違いで小千谷に降りてしまい、バスで長岡まで行きました。(阿部) 実家が柏崎で、当時は卓球部の試合で刈羽村の体育館にいました。しゃがんで揺れが収まるのを待っていた記憶しかありません。倒壊はしなかったけれど、家の中はぐちゃぐちゃでした。五日間くらい家で過ごして、夏休みの間は佐渡のおばあちゃんのところへ過ごしていました。

避難所での思い出はありますか？

(畔上) 暇なときにあちこち自転車で巡っていて、関君の避難所にもたしか一回行ったことあるけど、ゲーム機が置いてあったよね？(関) ありました。自分より五つ上の人がやっていたのを覚えてます。(中村) ゲームが置いてあっても年上の人がいじっているとなかなか入りづらいよね。(畔上) 上の人も小さい子たちの面倒みてる半面、遊びたい気持ちもあるしね。(中村) 阿部さんは佐渡での避難生活はどうだった？

(阿部) 基本的に家のお手伝いをしてました。いとも佐渡に住んでいて、その子と遊んだりもしていたので、そんなに寂しくはなかったです。だけど、最初のころは卓球部の練習に参加できないのが悔しくて毎日泣いてました。

学校が始まってからの生活で大きな変化はありましたか？

(目黒) 学校が始まってからも余震が起こって、そのたびにクラスの中で震度当てゲームが流行りましたね。(中村) 自分の中学校は体育館が二つあったけど、一つが倒壊して、休み時間は体育館の場所取りで揉めることもありました。(目黒) それは魚沼でもありました。私たちの世代の卒業式は、小出で合同でやりました。体育も、限られたことしかできなかったのをよく覚えてます。

今の仕事で不安なこと嬉しいことは？

(関) 最初はアルバイトで展示の案内などをしていたんですが、だんだん仕事が増えていくと手が回らなくて不安になるところがあります。案内のなかで自分の経験を聞かれることが多くて、聞きたいことに対して上手く答えられないこともあります。でも、予約の団体の方を案内する時に、時間内にピタッと終わったり、伝えたいことを伝えられたりしたときは嬉しいですね。(阿部) 自分よりも市内の人のほうが地震のことに詳しい人が多くて、来てくれる人に逆に教えてもらうことの方が多いです。「地震の時どうだった？」って聞かれても、全然覚えてないし、当時の写真も残ってなくて不安になるところもあります。最近、県外の人々が来館して、一時間くらいずっと聞いてくださって嬉しかったです。「いい話が聞けました。ありがとうございます」



小千谷市出身

中村 充 (25)



旧山古志村出身

関 将慶 (21)



旧広神村出身

目黒 幸恵 (26)



旧山古志村出身

畔上 凌 (25)



柏崎市出身

阿部 仁美 (21)

「これからの仕事で頑張りたいことは？」

（関）これから人が来る時期になると思うので、接客と自分のやらなきゃいけない仕事を両立できるようにしたいです。なかなかパソコンに向かう時間もなくなってしまってるので、その時間をどう割こうかって検討しています。家では家事などもするので、うまく仕事と家事のバランスをしっかりとりたいです。（阿部）案内や説明など今よりうまくやっていきたいなあって思います。まちからは日頃からできる備えなども伝えていけるので、あまり硬くなりすぎずに難しくなくいように伝えていきたいなって思います。（目黒）そなえ館の業務もまだまだですし、話術としてもまだまだなので、いかに伝えられるかという部分で先輩の技を盗んでいきたいです。防災教育を行っていくにしても、防災だけだと硬くなってしまおうので、ま

「これからの仕事で頑張りたいことは？」

（中村）関君とほぼ同時期に入って、まだ新人の部類にはいってしまおうと思うんですけど、年明けあたりからきずな館の責任者になることになりました。これから自分より下のスタッフも増えてくるので、自分を中心にどんどんきずな館を盛り上げていけるようになっていけたらなあと思っています。それでも硬くなりすぎず、どんどん面白いイベントなど企画していきたいと思っています。（畔上）地域のNPOとして活動していて、地域の支援員のベテランの人たちや、周り人がいるんだなって最近実感します。その中で、「おらたるでどうしていききたいか」という部分がすごく求められていると思います。今は日々の業務に追われて「おらたるは自発性の部分がすごく弱い」と周りからも言われているので、「ああいうことをやりたい」「こういうことをやりたい」と見えてきたらいいなと思っています。

「ブース作り」

No.1
Date

2016年7月20日

22日からふるさと回帰支援センターは以前場所(5・6階)から8階へお引越。色んな地域の方がブースの整理でばたばたとしています。

そんななか、新潟県のブースも開設準備開始。荷物の整理から始まり、ポスターを貼ったりと色々な装飾も行いました。

他県のブースを見てみると素敵などころばかり。そんな他県ブースの色々な装飾を参考に「にいがた移住支援デスク・ココスムにいがた」完成しました。



特集② ふるさと回帰 支援センターだより



新潟県にいがた暮らし推進課から当機構が受託し、7月22日よりスタートした「ふるさと回帰支援センター」新潟移住支援デスク・ココスムにいがた。新潟県相談員を始めて数ヶ月が経過しました。

少しずつ「ココスムにいがた」有楽町オフィスが開設されたことを知り、相談に来てくださる方にぎわい始めました。そんな「ココスムにいがた」の開設から現在までの様子の一部をご紹介します。(ムラビト・デザインセンター 山口 夏実)

「初・セミナー新発田&佐渡」

No.3
Date

2016年7月23日

この日は「ココスムにいがた」有楽町オフィスが開設して初めてのセミナーが開催されました。この日1日で2団体のセミナーがありました。

まず1団体目は新発田市。新発田で自分らしく生きている方3名をゲストに招いて色々な「移住」のお話を聞きました。仕事・農業・家族、色々なことを考え、志し新発田にたどり着いたということ、移住者の方から見た新発田のお話は興味を引くものばかりでした。その後個別相談の時間もあり、ご来場の方々もとても満足そうでした。

2団体目は佐渡市。先輩移住者の話や現在地域おこし協力隊と活動している方々の話など実際に佐渡に移住した方々から見たリアルな「佐渡市」を知ることが出来ました。移住体験談の合間には佐渡の味覚が楽しめる「佐渡の味覚と交流コーナー」があり佐渡の味覚を味わいながら佐渡のことを話し、大盛り上がりようでした。



「ココスム・にいがたオープン!!」

No.2
Date

2016年7月22日

ブース開設準備も無事に終わり、本日より新潟県相談窓口「にいがた移住支援デスク・ココスムにいがた」オープン。センター内にはたくさんの方が行き来して、にぎわっています。

新潟県のブースにも初の相談者の方が来てくださって、しっかりとお話をすることが出来ました。やはり新潟に移住したい・興味があるといわれると嬉しいですね。

このご縁を大切に、出来る限りのお力添えが出来れば良いと思います。これからが楽しみです!



「開設から1ヶ月が経ちました」

No. N
Date

2016年8月23日&9月10日

早いものでココスムにいがた開設から1ヶ月が経ちました。ようやく7月から8月初旬ごろまでの慌ただしい日々を終え、一段楽したように思います。徐々に相談に来てくださる方も増え、嬉しく思います。ココスムにいがたのブースも初めに比べてずいぶんにぎやかになりました。

9月10日はいつもとは少し違ったイベント「新・農業人フェア」に参加してきました。移住の中でも特に農業に特化したイベントで、新潟県のブースにも多くの方がお話を聞きにきてくださいました。やはり新潟県はお米が有名なので稲作の印象が強いようでした。若い世代の方も思いのほか農業に興味を持ってくださっているのを知りました。



「月末開催のセミナー」

No.
Date

2016年7月28日&7月31日

28日にはにいがたライフスタイルカフェ Vol.2 が開催されました。今回のテーマは「ローカルビジネス」。様々な形で地方で事業を起しているゲストをお招きしてローカルビジネスの起し方に関するお話を聞きました。その後ワークショップでは、参加者の方が何を聞き、何を感じたのか知ることが出来ました。そしてイベント終了後にはゲストと参加者の方々を交えた懇親会が開催され、移住した方したい方のざっくばらんなお話を聞きました。こういうお話が聞ける機会も多くは無いので、私にとってとても貴重で楽しい時間でした。

31日にはにいがた暮らしセミナー&U・Iターン相談会が開催されました。第1部のパネルトーク「外からみた新潟の魅力、そして地域とのつながり」では初めてのトークモデレーターをさせていただきました。改めて新潟の魅力とは何か、どうすれば新潟のよさが伝わるのかということを考えることが出来るいい機会でした。新潟はやっぱりいいところですね。



「ふるさと回帰フェア2016 in 東京」

No.7
Date

2016年10月22日

ふるさと回帰支援センターの中でおそらく一番大きなイベント、「ふるさと回帰フェア2016 in 東京」が開催されました。ご来場者は1万5千人を超える大盛況振りでした。

私は新潟県ココスムにいがたとして参加しました。新潟県のブースにもたくさんの方がお立ち寄りくださり、話を聞いてくださいました。いつもよりたくさんの方と直接お話しすることが出来てとても楽しい1日でした。

新潟を良いと思ってくれる人が少しでも増えていることを願います。



「就農から見る田舎暮らし」

No.6
Date

2016年10月16日

第2回目となる新発田市セミナーが行われました。今回のテーマは農業。新発田市に移住して農業をしているゲスト3名をお迎えして、お話をいただきました。農業とはいっても移住までは様々で、色んな形での就農の仕方があるようでしたが、皆さん毎日がとても楽しそうでした。自分の好きなようにスケジュールを立てられることも農業の魅力の一つだとおっしゃっていました。

